

2-3. 春日井市

No.	3	春日井市
-----	---	------

1. 取組の全体像				
1. 自治体の概要				
①	自治体名	春日井市		② 担当部局名 健康福祉部 地域共生推進課
③	人口	308,681(人) <令和2年10月/国勢調査>		
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)		健康福祉部地域共生推進課・健康増進課・障がい福祉課・生活支援課、市民生活部市民生活課・多様性社会推進課、こども未来部子育て推進課・こども家庭支援課・保育課、教育委員会学校教育課
			庁内連携内 ※会議体、情報共有	・市民生活の相談窓口を設置する課と孤独・孤立の課題を共有し、連携体制を構築
		庁内連携部局(メンバー)		健康福祉部介護・高齢福祉課、市民生活部戸籍住民課・保険医療年金課、財政部収納課、まちづくり推進部住宅政策課、上下水道部上下水道業務課、市民病院医療連携室
			庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・孤独・孤立になりうる出来事に伴う手続き窓口を担当する課と孤独・孤立の課題について共有
2. 形成をめざす地方版連携PFの姿				
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	- 重層的支援体制整備事業では、多機関協働による地域支援研究会を設置し、包括的な支援を担う人材育成に取組んでいる。 - 高齢分野では、市独自の地域ケア会議の仕組みを活用し、住民が主体となり地域生活課題を解決する仕組みづくりに取組んでいる。 - 昨年度 1 つの地域で、PFを立ち上げ取組を開始。		
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール		- 昨年度立ち上げたPFを分析し、地域アセスメントの項目を整理し、新たに他の日常生活圏域でPFを立ち上げる - PFは、市地域共生推進課と社会福祉協議会に配置する第2層生活支援コーディネーターの共同企画・運営とする
		最終的なゴール		モデル地区での取組を横展開することにより、市全域で孤独・孤立に気づき、支える体制をつくる
3. 地方版連携PFにおける連携体制				
①	地方版連携PF (ニュータウンエリア官民連携PF)	立ち上げ年度		令和5年度
		参画メンバー		居場所づくりの活動団体、NPO 法人、UR 生活支援アドバイザー、まちづくり会社、社会福祉法人、地区社協、民生委員児童委員、コミュニティナース、第2層生活支援コーディネーター
		選出・打診時の工夫		第2層生活支援コーディネーターの協力により、居場所づくりを意欲的に行う活動団体を選出・打診

②	地域版連携 PF (新規立ち 上げ予定)	立ち上げ年度	令和7年度(予定)
		参画メンバー	居場所づくりの活動団体、福祉関係事業者、民間企業、地区社協、民生委員児童委員、コミュニティナース、第2層生活支援コーディネーター(予定)
		選出・打診時の工夫	地域アセスメントにもとづき、そのエリアの核となる活動団体を選出し打診予定

4. PF連携による価値や工夫_考え方

- ・ 地域特性に応じたPFをつくるため、地域アセスメントを行い、共通の地域特性をもつエリアを単位とするPFを立ち上げる。令和5年度にモデル地区としてPFを立ち上げた藤山台・岩成台地区に加え、令和6年度は同じニュータウンであり隣接する高森台・石尾台地区まで拡大しニュータウン地区PFとして展開。
- ・ PFでは、福祉分野に限らず、居場所や交流を目的とした活動団体や地域活動に積極的な企業や社会福祉法人などに参加を呼びかける。
- ・ PFの運営は第2層生活支援コーディネーターを中心に市地域共生推進課が共同開催し、PF運営のノウハウを蓄積し、人材を育成しながら数年をかけて地域に根付かせる。

2. 連携PFイメージ

5. 連携PFのイメージ図



3. 試行的事業一覧					
6. 本年度に取り組む試行的事業の概要					
試行的事業のポイント・工夫		- 孤独・孤立を市民やPF参加者が我が事化しやすいよう定義し直し、PFの参加者同士の関係づくりと予防的な活動に取り組むPFとした。 - 孤立予防の大切さについて啓発し、PFから生まれたつながりづくりのツールを活かして、PF参加者が市民へ広く周知する情報発信を行った。			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	PF拡大を目指した地域アセスメントの実施	- 昨年度立ち上げた藤山台・岩成台地区のPFを、今後は市内全域へ水平展開していく。 - 水平展開の計画策定や地域・テーマ選定にあたって、地域のアセスメントシートを作成し、各地域のアセスメントを実施した。	PF拡大にあたって考慮すべき要素をアセスメントシートとして整理し、効果的なPF展開の戦略を立てること。	9月4日 (水)ヒアリング実施 10月15日 (火)アセスメントシート作成	— 費用なし
			成果検証結果	✓ 第2層生活支援コーディネーターとの議論やアセスメントシートの作成により、各地域の特性や社会資源、さらにはPF立ち上げにあたっての課題を可視化した。 ✓ 各地域が持つ強みや地域特性、共通課題等を可視化することができたため、どの地域をどう纏めて、あるいは分けて、どのようなテーマでPFを立ち上げるべきか検討が進んだほか、他部門と調整・検討する際のツールにもなった。	
②	生活動線上でのリーフレット配布	昨年度公的な場所で配布を行った相談窓口リーフレットを、医療機関や薬局、理美容室、金融機関、スーパー等の住民の生活動線上で配布した。	公的機関や福祉施設に訪問しない市民に対しても、孤独・孤立の問題や相談窓口についての周知啓発を行うこと。	9月20日 (金)納品 10月～配布	22万円 東栄株式会社
			成果検証結果	✓ 全607箇所、全21,262枚設置した。 ✓ 配布先では、客との雑談中にぽろっと困りごとが零れた際に手渡すことができた、との声があった。 ✓ クリニックの待ち時間で手に取りやすく、特に精神科クリニックでリーフレットの配布数も多いという声があった。	

③	つながりづくりを推進するイベント	PF参加団体と共催で、孤独・孤立予防の展示、地域食堂等による弁当販売、福祉事業所の作品販売、フードパントリー、フードライブ、地域の小学生による演奏等のステージイベント、キッチンカーの出店等を実施した。	- 地域食堂などの市民の居場所や交流活動について、春日井市東部地域の市民を中心に広く周知すること。 - 参加する市民に対して、孤独・孤立の問題を周知し、予防を啓発すること。 - 住民同士がゆるくつながり、交流できる場をつくること。	12月15日(日)	- 会場費：7万 まちスイング - イベント委託：58万円 有限会社イー・エフ・ピー - イベント保険：4万円 株式会社東京海上日動パートナーズ東海北陸 - 消耗品：1万円 株式会社市原商店
			成果検証結果 ✓ 約 1,000 人の住民が来場した。 ✓ 子どもからお年寄りまで幅広くアプローチすることができた。 ✓ 来場者アンケートから、多くの来場者が、つながりづくりの活動に関心を持ったことが分かった。 ✓ 来場者アンケートでは、様々な人と出会い交流できる場となったことが好評であった。		

④	「ゆるやかな つながりづ くり応援マ ップ」の作製	・ 昨年度、藤山台・岩成台PFの参加者から生まれた「ぷらっとノート」をはじめとした、つながりづくりの活動紹介を掲載するマップ「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」を作製した。 ・ 紙媒体の配布だけでなく、春日井市 HP やPF参加団体の SNS などのデジタル媒体でも周知した。	・ 「ぷらっとノート」をはじめ、つながりづくりに取り組む団体を、市民に広く周知すること。 ・ 藤山台・岩成台PFでのつながりづくりの取組である「ぷらっとノート」の活動を拡大すること。	1月31日 (金)納品	33万円 木野瀬印刷株式会社
			成果 検証 結果	✓ 公的機関だけでなく、スーパーやスポーツクラブ、飲食店等にて約5,700枚のマップを設置予定で調整を進めており、現時点で約2,000枚を設置した。 ✓ マップを活用してPFへの新規参加団体を募る過程で、ノートの設置場所が新たに9箇所増えた。 ✓ 市民から、とても見やすい、マップを活用して困っている方に積極的に居場所を教えたい、初めてマップを見た市民からどのようなマップか複数質問があり関心を持ってもらえた、ニュータウンエリア以外の地域でもこのようなマップがあったらいい等の声があがった。	

⑤	シンポジウムの開催	・「身近でゆる～いつながり」をテーマに、有識者による基調講演や、市内で居場所やつながりづくり活動を行う活動団体によるパネルディスカッションを行った。 ・「ぷらっとノート」の展示も行い、孤独・孤立には予防が大切であることの啓発やつながりづくり活動の周知を行った。	・ 孤独・孤立は誰にも起こりうる身近な問題であることや、孤独・孤立を予防する取組について市民に広く周知すること。	2月16日 (日)	・ チラシ：21 万円 木野瀬印刷株式会社 ・ 講演費：28 万円 まほうのだがしや チロル堂共同代表 吉田田タカシ様 ・ 謝金：27万円 登壇者5名 ・ 消耗品：2万円 市原商店 ・ お弁当：7千円 ちいき食堂厨 ・ クリーニング：2千円 中日本リネン
			成果検証結果		✓ 159 人が来場した。 ✓ アンケートの結果、93%が「身近な地域のつながりは大切だと感じた」、42%が「つながりづくり活動に参加してみたいと思った」と回答した。 ✓ つながりづくり活動の周知だけでなく、実際に支援活動をするきっかけや活動団体間の連携が図られた。

⑥	つながりサポーター養成講座の開催	孤独・孤立を予防し、当事者を支援するために日常の中で何ができるのかを学び、「つながりサポーター」養成講座の講師を育成するための講座を開催した。	つながりサポーター養成講座の講師を育成することで、今後市内にて「つながりサポーター」の養成を進める。	1月22日 (水)	3万円+交通費 一般社団法人 Shien 代表理事 山田 浩史氏
			成果検証結果	✓ 庁内他部署や社会福祉協議会等、計22人が受講した。 ✓ アンケートの結果、回答者の100%が周囲の困っている人を助けようと思ったと回答した。 ✓ 次年度以降のつながりサポーター養成講座の活用方法の検討が行われた。	

7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列举

- モデル地区を参考に市内他地域でPF立ち上げを継続し、市内全域に水平展開できる体制をつくる。
- モデル地区PFから生まれたノートやマップは、つながりづくり活動を行うツールとして活用する。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- PFの活動を知った他の活動団体から、PFに参加したいとの申し出があった。
- つながりづくりを推進するイベント実施時に新聞の取材が行われた。

4. 連携PFの行程および実務上の留意点

【PF立ち上げから拡大までの行程】

実務上の留意点				
連携 PF の行程	令和5年度	PFの立ち上げ	令和6年度	・昨年度PFの拡大 ・PF水平展開の検討

(ア)初期段階				
主担当部署の設定	8月	■幅広い領域に関わるテーマであるため、重層的支援体制整備事業や地域包括ケア等に取り組んできた「健康福祉部地域共生推進課」が担当	—	—
担当者の初動	11月	■現実的な支援計画を立てるために、まずは社会資源の洗い出しを行った	—	—
(イ)準備段階				
地域の現状把握	11月	■地域の実情をよく知る第2層生活支援コーディネーターや、行政計画を担当した市担当者(福祉政策課)の知見をもとに現状把握を実施	—	—
連携PFの企画・設計	11月	■共通の地域特性をもつ地域単位でのPFの立ち上げを検討	9月～	■地域特性が明確でない地域には、参加者を運営側が指定しない自由参加型でのPFの形も検討
取組テーマの設定	11月	■初年度はニュータウンエリアで取組むため、つながりづくりをテーマとした	9月～	■PFを別地域に展開するため、該当地域が共通して抱える課題や孤独・孤立の指標のアセスメントをもとにテーマを設定
	11月	■「孤独・孤立の定義」がPFや孤独・孤立対策の基盤ともなるため、丁寧に定義を検討した	—	—
関係団体のリストアップ(市内)	11月	■市内連携にあたっては、市内連携会議前後にフォローを行いつつ、他部署の自主性を尊重した	—	—
関係団体のリストアップ(市外)	11月	■理想のPFのあり方や避けたい状況を共有したうえで、第2層生活支援コーディネーターに一任した	—	—
初期メンバーへの声掛け	11月	■メンバーの納得を得られやすいよう、活動団体には第2層生活支援コーディネーターから、企業等には市地域共生推進課から声掛けを実施	—	—
関係団体のリストアップ(市内)	1月	■市内連携会議を開催し、講師を招いて孤独・孤立対策についての講話を行うことで、これから孤独・孤立対策に取り組むことを市内で共有した	—	—

(ウ)設立段階				
連携PFの運営	12月	■初年度は主に市地域共生推進課が企画を行い、第2層生活支援コーディネーターと共同で運営を行った	4月～	■市地域共生推進課と第2層生活支援コーディネーターが共同で企画・運営を行う
域内住民・団体への情報発信	—	—	9月～	■生活動線上で相談窓口に関するリーフレットを配布
			12月	■つながりづくりを推進するイベントの開催
			1月～	■PFでの話し合いを踏まえて、「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」を作製し、スーパーや飲食店で配布
			2月	■孤独・孤立とつながりについて考えるシンポジウムの開催
(エ)自走段階				
地域協議会の設置	—	■社会福祉法に基づく支援会議の活用	—	—
PFの拡大・活性化	—	—	今後	■高齢分野の日常生活圏域ごとではなく、日々の生活様式に基づいて地域を拡大していく
			今後	■アセスメントシートをもとに、共通の地域特性を持つ地域単位でPFを水平展開していく

【それぞれの段階での留意点】

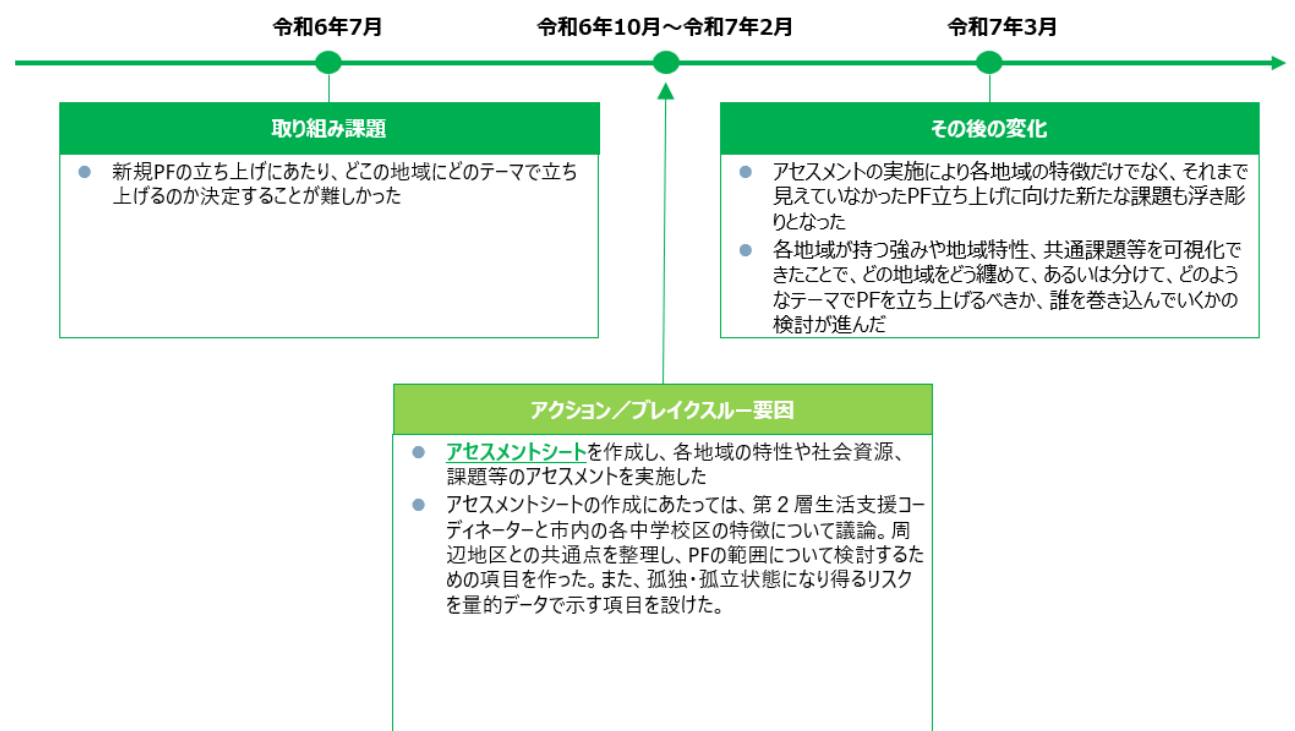
(ア)初期段階		
①	主担当部署の設定	■幅広い領域に関わるテーマであるため、重層的支援体制整備事業や地域包括ケア等に取り組んできた「健康福祉部地域共生推進課」が担当 ・ 孤独・孤立は幅広い領域に関わる内容であることから、福祉相談支援や重層的支援・地域包括ケア等の分野横断的な取組を進めてきた「健康福祉部地域共生推進課」が担当を務める。
②	担当者の初動	■現実的な支援計画を立てるために、まずは社会資源の洗い出しを行った ・ 「何をするか」からではなく、「何が社会資源としてあるのか」「なにが活用できるのか」から考えることで、地に足がついた計画を立てることができ、それにより他部署や社会福祉協議会からの理解や協力が得られやすくなった。 ・ 市地域共生推進課職員と社会福祉協議会の第2層生活支援コーディネーターとで知見を出し合い、孤独・孤立対策に資する社会資源を洗い出した。その後、洗い出した社会資源から導かれる現実的なプロセスや目指す姿を描いた。

(イ)準備段階		
③	地域の現状把握	■地域の実情をよく知る第2層生活支援コーディネーターや、行政計画を担当した市担当者(福祉政策課)の知見をもとに現状を把握 ・ 日々各地域に密着して支援を行っている第2層生活支援コーディネーターの知見を活かし、主に高齢者分野の現状把握を実施した。 ・ 行政計画には各地域の特徴が記載されているため、計画策定を担当した市職員の協力を得て、各地の特性を把握した。また、地域を分け分けした際の担当者も各地の特性を把握しているため、知見を活用した。
④ -1	取組テーマ決定	■初年度はニュータウンエリアで取組むため、つながりづくりをテーマとした ・ ニュータウンエリアは土地に根付いた文化や住民の地縁が少ないことや、既に居場所づくりに取組む活動団体が豊富にあったことから、「つながりづくり」をテーマに据えた。 ■PFを別地域に展開するため、該当地域が共通して抱える課題や孤独・孤立の指標のアセスメントをもとにテーマを設定 ・ 孤独な子育て世帯が多い、就学援助利用者が多い等、その地域が共通して抱える課題をテーマとして設定することとし、各地域の課題を可視化するにあたっては、アセスメントシートを活用した。 ■「孤独・孤立」の定義がPFや孤独・孤立対策の基礎となるため、丁寧に定義づけを行った ・ 春日井市の孤独・孤立対策を進めるうえで、PF参加者が主体的に参画できるよう、誰もが我が事として捉えられ、かつ自分にもできることがあると感じてもらえるよう「自分のことが話せる相手がいない状態」と定義した。 ・ 定義づけにあたっては、仮説を立てたうえで対応策を検討し、行き詰まったら再度仮説を立て直す、というプロセスを繰り返し、丁寧に検討を行った。

④ -2	連携PFの 企画・設計	■<u>共通の地域特性をもつ地域単位でのPFの立ち上げを検討</u> - 農地が多いエリアや新興住宅地、高齢化が進んでいる地域や子育て世帯が多い地域等、地域によって課題や特徴が異なり、強みである地域資源も異なる。そのため、各地の実態やニーズに即したPFを展開できるよう、市で1つのPFではなく、共通の地域特性をもつ単位でPFを複数立ち上げ、最終的に市全域をカバーできる体制を構築する。 ■<u>地域特性が明確でない地域には、参加者を運営側が指定しない自由参加型のPFの形も検討</u> - 各地域の現状把握により、PFを立ち上げやすい土壌がある地域と、立ち上げにくい地域、地域特性が曖昧で立ち上げイメージが湧きにくい地域の3種類に分けられた。 - 昨年度は、地域で共有されている課題や社会資源、行政との連携経験があり、PFを立ち上げやすい土壌がある地域でPFを立ち上げた。 - 立ち上げに課題がある地域については、その課題が明確であるため、解決方法を検討することができる。一方、立ち上げイメージが湧きにくい地域については、社会資源や活動団体が不明瞭でメンバーへの声掛けが難しいため、行政から関係団体へ参加を呼びかける形式のPFではなく、自由参加形式のPFの方が適性があると考えられる。
⑤	関係団体の リストアップ 初期メンバー への声掛け	■<u>庁内連携にあたっては、庁内連携会議前後にフォローを行いつつ、他部署の自主性を尊重した</u> - 庁内連携会議前に、会議の目的と、孤独・孤立と各課業務との関連性を説明することで、庁内関係課が主体的に会議に参加・発言してもらえるよう根回しをした。 - 庁内連携会議後には今後の方針や実際の行動レベルまで認識を共有することで、確実に連携出来る体制を整えた。 ■<u>庁内連携会議を開催し、講師を招いて孤独・孤立対策についての講話を行うことで、これから孤独・孤立対策に取り組むことを庁内で共有した</u> - 自殺予防対策ネットワーク会議に参加している部署と、孤独・孤立になり得る出来事と関連のある行政手続きを所管する部署に対して、孤独・孤立対策の必要性や市の取組の方向性等を周知した。 ■<u>理想のPFのあり方や避けたい状況を共有したうえで、第2層生活支援コーディネーターに一任した</u> - 地域の様々な活動者と接点を有している第2層生活支援コーディネーターに一任した。依頼するにあたっては、従来の高齢者PFと差別化することや、PFのテーマである「つながりづくり」と自らの地域活動に親和性を感じるメンバーとしたいことを伝えた。 ■<u>メンバーの納得を得られやすいよう、活動団体には第2層生活支援コーディネーターから、企業等には市地域共生推進課から声掛けを実施した</u> - 地域食堂等の活動団体には普段からコミュニケーションをとっている生活支援コーディネーターから声掛けを実施し、スムーズに話ができるようにした。施設や企業等には公的機関としての安心感がある市地域共生推進課から声掛けを行った。

(ウ)設立段階		
⑥	域内住民・団体への情報発信	■生活動線上で相談窓口に関するリーフレットを配布 - 相談窓口を掲載したリーフレットを、病院や理美容院、スーパー等の生活動線上で配布することで、公的機関に訪問しない市民に対しても日常の中で相談窓口を知ってもらうようにした。 ■つながりづくりを推進するイベントの開催 - 地域食堂による弁当販売や福祉事業所の作品販売等を行い、市民の居場所や交流活動について近隣住民に広く周知を行った。 - 子どもからお年寄りまで約 1,000 人の市民に来場してもらい、来場者同士や出展者同士、さらには来場者と出展者が出会い、ゆるくつながり交流できる場とした。 ■PFでの話し合いを踏まえて、地域居場所を示すマップである「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」を作製し、スーパーや飲食店で配布 - 昨年度PFの活動の中で生まれた「ぷらっとノート」をはじめとした、つながりづくりの活動紹介を掲載するマップを作製した。「ぷらっとノート」について周知するだけでなく、設置している活動団体の紹介文や顔写真を掲載して、各団体に親近感をもってもらうよう工夫することで、各活動に関心をもってもらい、気軽に訪問できるようにした。 ■孤独・孤立とつながりについて考えるシンポジウムの開催 - 孤独・孤立は誰にも起こりうる身近な問題であり、それを予防するためにつながりづくり活動が全国や市内で行われていることを周知するために、「身近でゆる～いつながり」をテーマにした有識者による基調講演や、市内で居場所やつながりづくり活動を行う支援者によるパネルディスカッションを行った。
⑦	連携PFの運営	■初年度は主に市地域共生推進課が企画を行い、第2層生活支援コーディネーターと共同で運営を行った ■市地域共生推進課と第2層生活支援コーディネーターが共同で企画・運営を行う 初年度(令和5年度)は、企画は市地域共生推進課、運営は市地域共生推進課と第2層生活支援コーディネーターが共同で行ったが、2年目(令和6年度)は、企画段階から市地域共生推進課と第2層生活支援コーディネーターが共同で実施し、運営は第2層生活支援コーディネーターを中心として市地域共生推進課も共同で実施する。
(エ)自走段階		
⑧	地域協議会の設置	■社会福祉法に基づく支援会議の活用 重層的支援体制整備事業の実施に伴い設置した、社会福祉法第106条の6に基づく支援会議の枠組みを活用し、地域協議会を兼ねる。
⑨	PFの活性化	■高齢分野の日常生活圏域ごとではなく、日々の生活様式に基づいて地域を拡大していく - 移動範囲や普段使用する施設、生活様式が同じで、よって抱える地域課題も類似していると想定される周辺地域へPFを拡大した。 ■アセスメントシートをもとに、共通の地域特性を持つ地域単位でPFを水平展開していく - アセスメントシートにより各地域の強みや特徴、地域課題を可視化することで、どの地域をどう纏めて、あるいは分けて、どのようなテーマで、誰を巻き込んでPFを立ち上げるか等の検討を行い、PFを市内に水平展開していく。

ブレイクスルー要因	
アクション/ ブレイクスルー要因	<u>アセスメントシートにより、各地域の特徴や課題を可視化</u> 新規地区でのPF立ち上げにあたり、地区・テーマの選定に難航していた。そのため、第2層生活支援コーディネーターと市内の各中学校区の特徴について議論し、アセスメントシートを作成した。アセスメントシートでは、各地域の地域属性(古くからある住宅地、ニュータウン等)や社会資源の有無(集合可能施設の有無等)、孤独・孤立リスクの高低(高齢化率、就学支援世帯率、生活保護率等)を洗い出した。また、周辺地区との共通点を整理し、PFの範囲について検討するための項目を作った。アセスメントシートを記入した結果、まちづくりや孤独・孤立対策に地域差が大きいこと等、これまで見えていなかった課題が明らかになった。課題が明確となったため、次年度以降は課題への対応策をとりつつ新規地区にてPFを立ち上げる予定である。



コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性～

えがいの駄菓子屋(愛知県春日井市)

- ・ 代表の毛利さまは、介護業界での経験をきっかけに日本の人口減少や少子高齢化による社会の衰退に危機感を抱き、子ども達に明るい未来を残すためできることに取組もうと決意。「社会全体を変えることはできないが、住みやすい地域をつくることならできる」と思い、地域住民がつながりあい、支えあう居場所をつくろうと、令和5年に「えがいの駄菓子屋」をオープンした。
- ・ 「みんなのもう1つの家になる」という理念のもと、子どもやその母親、高齢者が安心して過ごせる居場所となるように様々な活動に取組んでおり、年間の利用者数は延べ約 16,000 人にのぼる。

📍「えがいの駄菓子屋」の活動内容

- ・ 週6で駄菓子屋を開いている。1階は駄菓子屋と飲食スペース、2階はオープンスペースとして開放しており、子ども達が駄菓子を買って食べるだけでなく、学校の宿題をしたりゲームをしたりと思い思いに過ごしている。運営は高齢者を中心としたボランティアが行っており、子どもにとって多世代と関わる場となっているほか、高齢者の居場所にもなっている。また、信頼できる居場所があることで母親の安心感にもつながっている。
- ・ また、高齢者向けに麻雀教室や映画上映会等の各種講座やイベントを実施し、家の外に出る機会を創出しているほか、日常の相談や困りごとを受け付けている。

📍「楽しい」が孤独・孤立対策につながる

- ・ 引きこもりや家からなかなか出ない高齢者等も、楽しみがあればその場に来てくれることが多い。そのため、住民が「楽しい」と感じてもらえる企画作りを行っている。
- ・ 夏と秋には、店前の広場でお祭りを開催している。令和6年度は、夏のお祭りは延べ約 2,000 人、秋のお祭りは延べ約 1,000 人の来場があった。
- ・ 高齢者向けの講座やイベントも、家から出ない傾向がある高齢者男性をはじめ、それまで顔を見なかった高齢者が顔を出してくれるようになった。

📍支援者同士がつながることが重要である

- ・ 一つの団体でできることには限りがあるため、いかに他団体と連携して支援の幅を広げていくかが重要である。また、孤独・孤立対策を行う支援者自身が孤独・孤立してしまうケースも見られるため、それを防ぐためにも、支援者同士のつながりは必要である。
- ・ 互いの活動について話す機会はあまり多くないため、PFにて互いの活動を知ったり、ノウハウを共有したりできることは大変意義がある。とはいえ、すべての支援者の温度感が一致するとは限らないため、PFは支援者同士がゆるくつながり、ネットワークづくりのきっかけとなる場と位置付けることが良いのではないかな。



あたたかく楽しい社会にするために、誰でも受け入れられる居場所をつくることで、多世代の住民が交流し、支えあう地域づくりを行う。

えがいの駄菓子屋 代表理事 毛利 規寛さま

5.自治体等との打合せ記録一覧				
No.	日時	打合せ相手団体	出席者 打合せ相手	NRI
1	7/29(月) 15:00-16:30	春日井市 健康福祉部 地域共生推進課	長坂様、上野様、伊藤様、 稲垣様、町本様	生駒、橘、小田
2	9/4(水) 16:40-17:00	春日井市 健康福祉部 地域共生推進課	長坂様、上野様、伊藤様、 稲垣様	生駒、橘、小田
3	10/7(月) 10:00-11:00	春日井市 健康福祉部 地域共生推進課	上野様、伊藤様、稲垣様	生駒、橘、小田
4	12/16(月) 10:00-12:00	春日井市 健康福祉部 地域共生推進課	長坂様、上野様、伊藤様、 稲垣様、町本様	橘、小田
5	1/7(火) 16:00-17:00	春日井市 健康福祉部 地域共生推進課	上野様、伊藤様	橘、小田
		株式会社 Ridilover	柴田様	
		一般社団法人 Shien	山田様	
6	1/23(木) 11:00-12:00	春日井市 健康福祉部 地域共生推進課	上野様、伊藤様、 稲垣様、町本様	橘、小田
7	2/26(水) 10:30-11:00	春日井市 健康福祉部 地域共生推進課	上野様、伊藤様、 稲垣様	橘、小田

自治体による従前からの取組

■ 高齢者向けPF

(取組概要)

高齢者を対象に平成30年に立ち上げられた、①地域ケア個別会議②地域ケア会議③地域協議会の3つの会議体からなるPFである。立ち上げ当初は一部のモデル地域のみであったが、水平展開が進み、現在では春日井市全域に展開されている。①地域ケア個別会議は、困りごとに関する個別ケースを議論する会議体である。②地域ケア会議は、地域課題に対して住民自らができる解決手法を考えて実行する会議体であり、高齢で庭木の手入れが難しい世帯へ定期的に手伝いに行く活動や、地域で気軽に外出するきっかけづくりとして公園でのラジオ体操会を定期的に開催する等の活動が創出されている。③地域協議会では、近隣地域の解決方法を知るための会議体であり、各地域で年2回開催されている。

■ 藤山台・岩成台地区孤独・孤立対策官民連携PF

(取組概要)

孤独・孤立対策官民連携PFも上記高齢者向けPFと同様に、まずはモデル地域にて立ち上げ、その後市全域へ展開することとした。令和5年度は、1つ目のモデル地域として、地域課題と、それを解決しうるソフト・ハード両面の資源が豊富である藤山台・岩成台を選定し、PFを立ち上げた。立ち上げに当たっては、上記高齢者向けPFのうち②地域ケア会議の立ち上げノウハウと、③地域協議会の場を活用した。モデル地域にて居場所づくり活動やつながりづくり活動を行う団体に参加してもらい、孤独・孤立について理解をしたり、そのためにどのような対策ができるのかをグループに分かれてディスカッションしたりした。その結果、気軽に気持ちを書き込み、それに対してほかの人が返信をすることでゆるく人と人がつながることができる「ぷらっとノート」の取組が生まれた。

図表 ぷらっとノート

「ぷらっと」について

日常の出来事や自分の気持ちを、
文字や絵など、好きな方法で表現してみませんか。

記入日 2024年 3月 1日

あなたの気持ち
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ 選んで○をつけるか
 お顔を描きましょう

あのね…

○が分かったよ ○を教えて
 この絵を見て 〇〇な出来事が
 欲しいな ありました

●文字で書く ●絵を描く ●折り紙の作品を貼る など

そうだね

あのね…を読んで、思ったこと・伝えたいことはここに書けます
 (批判せず、尊重し合う気持ちで書きましょう)

ぷらっと
 について

「ぷらっと」は、藤山台・岩成台地区で、地域で活動する様々な団体と市とが孤独・
 孤立について話し合う場で、気軽にいかたり読んだり、誰もが「ぷらっと」寄っていく
 ノートになってほしいとの声から生まれました。
 このノートを読む人たちが、お互いにつながり合えますように。

記入日 年 月 日

あなたの気持ち
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 選んで○をつけるか。
 ←こちらに書いてください

あのね…

そうだね

1

試行的事業	
① PF拡大を目指した地域アセスメントの実施	
概要	昨年度立ち上げた藤山台・岩成台地区のPFを、今後は市内全域へ水平展開していく。水平展開の計画策定や地域・テーマ選定にあたって、地域のアセスメントシートを作成して、各地域のアセスメントを実施した。
ねらい	- アセスメントシートを作成することにより、各地域の特徴や孤独・孤立リスク、テーマ、最適なPF立ち上げ方針を整理し、効果的なPF展開の戦略を立てること。 - 担当者が異動で変更となった場合でも、PF立ち上げ経緯が分かり、かつ各地の現状を更新できるようにすること。
工夫点	アセスメントシート作成にあたって、本事業主担当の地域共生推進課と、地域密着型で地域支援を実施している第2層生活支援コーディネーターとで各地域の特徴や、新規PFの展開先について議論を行った。
結果	- 第2層生活支援コーディネーターとの議論やアセスメントシートの作成により、各地域の特性や社会資源、さらにはPF立ち上げにあたっての課題を可視化した。 - 各地域が持つ強みや地域特性、共通課題等を可視化することができたため、どの地域をどう纏めて、あるいは分けて、どのようなテーマでPFを立ち上げるべきか検討が進んだほか、他部門と調整・検討する際のツールにもなった。

- ・ 代表的な地域属性: その地域の特徴を端的に示す
- ・ 集合可能施設: PFの拠点となり得る施設の確認
- ・ 孤独・孤立リスク: 地域特性を定量的・定性的に確認
- ・ 行政の介入の必要性・緊急度: 行政が介入するニーズ・緊急度を確認
- ・ 周辺地区との共通点: 周辺地域と一緒にPFを立ち上げることができるか確認
- ・ PF立ち上げに向けたファーストアクション: 地域住民の活動状況に応じたアプローチ方法を確認
- ・ 地域課題: PFのテーマとなる地域課題の確認

A.地区属性

I. 代表的な地区属性

代表的な地域が複数存在する場合は複数にチェック。

☐ 古くからある住宅地
☐ 新興住宅地
☐ ニュータウン
☐ 農地が多い
☐ 工場が多い

B.集合可能施設

II. 集合可能施設名

集合可能施設が存在する場合は、その施設名を記入してください。

(ex) ぐる〜ぽふじょう

※集合可能施設がない場合は、Bは未記入の上でF（4）を記入。

C.アセスメント項目①

I. 孤独・孤立リスクの検討（統計）

各項目の数値を記入してください。

■ 高齢化率	20.0	%
■ 単身世帯数		世帯
■ 単身世帯割合	17.5	%
■ 子育て世帯数		世帯
■ 子育て世帯割合	22.0	%
■ 転出入者数		人
■ 転出入者割合	13.0	%
■ 就学援助利用者数		人
■ 就学援助利用割合	6.5	%
■ 生活保護被保護者人数		人
■ 生活保護率	1.5	%

高齢者の単身世帯が多い場合、孤独・孤立のリスクが高い可能性がある。

転入者が多く子育て世帯も多い場合は、一人で子育てできる回が多い可能性がある。

生活保護率は、生活保護受給者のみでなく、就学支援世帯も考慮する必要があります。

H.アセスメント項目②

I. ファーストアクションの検討

中心人物や、自立支援、活動者など

ない

周りの地域との連携を検討する

単一である

複数ある

代表的な人物や組織

いる

個別にコンタクトをとり、周回の巻き込み方法を検討する

ない

連携体制

ある

組織にコンタクトをとり、巻き込んでもらう

ない

対立

ある

【注意】個別に近くコンタクトをとり、入り方を考える

I.アセスメント項目③

I. 地域課題の検討

各項目の地域課題について、存在する場合は調査結果を簡潔に①〜③の枠に書き、地域への影響を記入してください。

具体的な課題

☐ 子育て (顕在化・潜在性)	
☐ 高齢者 (顕在化・潜在性)	
☐ 交通手段 (顕在化・潜在性)	
☐ ... (顕在化・潜在性)	

II. 地域課題の検討

各項目の地域課題について、存在する場合は調査結果を簡潔に①〜③の枠に書き、地域への影響を記入してください。

具体的な課題

☐ 子育て (顕在化・潜在性)	
☐ 高齢者 (顕在化・潜在性)	
☐ 交通手段 (顕在化・潜在性)	
☐ ... (顕在化・潜在性)	

② 生活動線上でのリーフレット配布	
概要	昨年度公的な場所で配布を行った相談窓口リーフレットを、医療機関や薬局、理美容室、金融機関、スーパー等の住民の生活動線上で配布した。
ねらい	日常的に訪れる場所でリーフレット配布を行うことで、公的機関や福祉施設を訪問しない市民にも孤独・孤立問題やその相談窓口の周知をできるようにした。
工夫点	- 各団体へ趣旨等の説明を行い、理解を得たうえで配布をした。 - 困っている人に手渡しを実施してもらう等、必要としている人に届きやすくした。
結果	- 全 607 箇所、全 21,262 枚設置した。 - 配布先では、客との雑談中にぼろっと困りごとが零れた際に手渡すことができた、との声があった。 - クリニックの待ち時間で手に取りやすく、特に精神科クリニックでリーフレットの配布数も多いという声があった。

図表 配布したリーフレット

**気軽に掛かけたり
お話しできる場所を
見つけてみませんか？**

このリーフレットは、SNS や電話など、自分のことを話せる相談先や、趣味や地域の集まりなどあなたの居場所を見つけるためのお手伝いをします。

ご自身のため、大切な人のために
ご活用ください。

**趣味のサークルや
ボランティア活動などに関心がある方は
こちらへ気軽に問合せください**

連絡先：0568-85-4321
(総合福祉センター内)
(FAX: 0568-86-3156)
受付日時：平日 8:30～17:15
相談窓口：春日井市社会福祉協議会 地域支援課



**直接は話づらい…、
SNSで相談してみませんか**

●あなたのいばしょ
内容：年齢や性別を問わず誰でも無料・匿名で利用できるチャット相談窓口です。
受付日時：24 時間 365 日

●あいちこころのサポート相談
内容：愛知県内に在住、在勤、在学の方を対象とした、SNSを活用したこころの悩み相談です。
受付日時：月～土曜日 20:00～24:00
日曜日 20:00～翌日 8:00

●10代20代女性のためのLINE相談
内容：親に言えない悩みがある、対人関係で悩んでいる、居場所がない、なぜか分からないけど涙がでる…、どんなことでも大丈夫です。ひとりで悩まず相談してみませんか。
受付日時：月・水・木・金・土曜日
10:00～22:00

●生きづらびっと
内容：「死にたい」「消えたい」といったつらい気持ちを安心して話していただくことのできるSNS相談です。
受付日時：毎日 8:00～22:30

春日井市健康福祉部地域共生推進課
電話 0568-85-6251
FAX 0568-84-5764
chiiki@city.kasugai.lg.jp



**おせっかいかも
しれませんが・・・**

今、心配はないけど…
楽しく過ごしたいな…

**あなたに知ってほしい
相談窓口があります**



春日井市
kasugai City
令和6年9月発行

こんな時、相談してみませんか

自分の気持ちを整理できない

相談名：メンタルヘルス相談
連絡先：0568-85-6172(予約制)
(FAX: 0568-84-5764)
受付日時：相談実施日は市ホームページをご確認ください。



体調で気になることがある

相談名：健康相談
連絡先：0568-85-6164(健康増進課)
kenko@city.kasugai.lg.jp
受付日時：平日 8:30～17:15



**子育てのことで
どこに聞くとよいか分からない**

連絡先：0568-85-6170(市役所 2 階)
0568-87-1552
(総合保健医療センター 3 階)
kodomo@city.kasugai.lg.jp
受付日時：平日 8:30～17:15
相談窓口：こども家庭支援課(こども家庭センター)

家庭や学校、職場になじめない

相談名：子ども・若者総合相談
連絡先：0568-82-7830(子育て推進課)
s-soudan@city.kasugai.lg.jp
受付日時：月～土曜日 15:00～19:00

**いじめや
学校に行けなくて悩んでいる**

連絡先：0568-34-8400(中央公民館)
受付日時：平日 9:00～12:00、13:00～16:00
相談窓口：いじめ・不登校相談室

**障がいのことで
どこに聞くとよいか分からない**

連絡先：0568-84-5300(総合福祉センター内)
(FAX: 0568-84-4913)
受付日時：平日 8:30～17:00
相談窓口：高齢者相談支援センターしゃきょう

お金が足りなくて生活が苦しい

連絡先：0568-85-6152(市役所 2 階)
受付日時：平日 8:30～17:15
相談窓口：自立支援相談コーナー
相談フォームからの相談も可能です→



**高齢者のことで
どこに聞くとよいか分からない**

相談窓口：地域包括支援センター
※市内に12か所の地域包括支援センターがあります。
市ホームページから担当の相談窓口をご確認ください。
相談フォームからの相談も可能です→



**女性が家庭や
職場の人間関係に悩める**

相談名：女性の悩み相談
連絡先：0568-85-7871(レディヤンかすがい)
受付日時：火～金曜日 13:00～16:30
※祝休日、及び年末年始を除く

外国語で相談したい

相談名：外国人相談
(市役所 2 階市民相談コーナー)
連絡先：0568-85-6624
(※相談日時のみ使用可)
相談日時：第1水曜日……英語・フィリピン語
第2・4水曜日……ポルトガル語
第3水曜日……スペイン語
9:00～12:00、13:00～16:00

その他の各種相談

相談名：市民相談
(市役所 2 階市民相談コーナー)
連絡先：0568-85-6620(※一部予約制)
受付日時：平日 8:30～17:15
法律や多重債務等、多くの相談メニューがあります。各種相談の実施日は市ホームページをご確認ください。市公式LINEで予約ができます。

市 HP



市公式 LINE



図表 リーフレット配布場所の詳細

設置場所	設置場所数	設置部数
春日井市医師会の会員医院	181	7,200
春日井市薬剤師会の会員薬局	144	5,430
春日井市歯科医師会の会員歯科医院	113	5,650
美容組合の会員美容室	90	552
理容組合の会員理容室	76	2,280
株式会社バローホールディングス(スーパー)	3	150

③ つながりづくりを推進するイベント	
概要	PF参加団体と共催で孤独・孤立予防の展示、地域食堂等による弁当販売、福祉事業所の作品販売、フードパントリー、フードドライブ、地域の小学生による演奏等のステージイベント、キッチンカーの出店等を実施した。
ねらい	- 地域食堂等、つながりづくりや居場所づくりの活動を近隣住民を中心に広く知ってもらうこと。 - 孤独・孤立問題を周知し、予防を啓発すること。 - 住民同士がゆるくつながり、交流できる場をつくること。
工夫点	- 参加者が楽しむことを最優先とし、安全確保や環境整備等は自治体で行いつつ、コンテンツは主催の活動団体の自主性に任せることで、民間の自由な発想を活かした。 - アンケートの回収率を上げるため、アンケートに回答するとフードパントリーで食料を無料でもらえる仕組みにした。 - 多くの世代に集まってもらえるよう、ステージイベントや子ども向けのゲームコーナーを設けた。
結果	- 約1,000人の近隣住民が来場した。 - 子どもからお年寄りまで幅広くアプローチすることができた。 - 来場者アンケートから、多くの来場者が、つながりづくりの活動に関心を持ったことが分かった。 - 来場者アンケートでは、様々な人と出会い交流できる場となったことが好評であった。

(開催概要)

日時:12月15日(日) 10:00~14:30

場所:ノキシタプレイス 西藤山台運動交流ひろば体育館

図表 チラシ(主催者である活動団体が作成、左:表面/右:裏面)



今回のイベントは、春日井市の孤独・孤立問題やそれに対するPFの取組について市民に周知したいという思いと、PF参加団体の一つである「ちいき食堂厨」のイベントを開催して活動を周知したいというニーズが合致したことにより企画された。民間の活動団体よりも市地域共生推進課の方が早く施設の予約をできることや、活動団体の自由で豊かな発想を活かすことを考慮し、安全面や会場準備等の環境整備は市地域共生推進課が行い、イベント内容は主催団体のちいき食堂厨が企画し、それぞれの得意を活かした連携を行った。スタンプラリーにより来場者が各ブースを回るようにしたり、会場のスタッフに声をかけるとお菓子をもらえることで交流を生み出す企画を行ったり等、主催団体のアイデアにより人々がゆるやかにつながることができる機会が生まれた。広報は、主催団体の日頃のコネクションを活用し、ポスト投函だけでなく、小学校や幼稚園、保育園への配布も行った。市地域共生推進課が共催であることから施設を早めに予約でき、広報に時間をかけることができ、また公的機関が入っていることの安心感から学校での広報も実施できた。

つながりづくり活動や地域の居場所を近隣住民に知ってもらうために、各団体がブースを出展し、お弁当の販売やワークショップ、作品販売等を行った。本イベントが開催されたのは廃校された小学校を建て替えた施設であり、近隣住民のアクセスが良い立地であったことや、フードパントリー配布等を行ったことで、多くの住民に来場いただいた。また、地元小中学生によるブラスバンドやオカリナクラブの演奏等のステージイベントや、子ども向けのゲームコーナーの設置等により、子どもからお年寄りまで幅広い世代が集まった。近隣小学校のブラスバンドのステージは、子どもだけでなくその親世代の呼び込みにもつながった。

図表 ステージイベントに集まる来場者



図表 ゲームコーナーで遊ぶ子ども



藤山台・岩成台PFの取組として生まれた「ぷらっとノート」を紹介する展示を行った。来場者にもぷらっとノートを書いてもらい、ぷらっとノートで人とゆるくつながることを体験できるブースも設置した。また、当日は新聞の取材もあり、12月20日(金)中日新聞の朝刊に記事が掲載された。

図表 ぶらっとノートを記入する親子



図表 ほっこりまつりを紹介した新聞記事



出所)中日新聞 令和6年12月20日朝刊

12版 第29474号

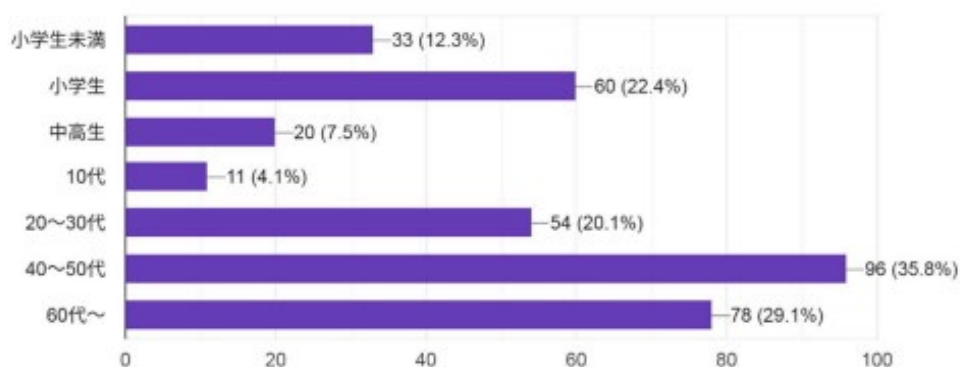
「孤立、孤独を防ごう ほっこりまつりで交流」

(効果検証)

来場者アンケートには268グループが回答した。回答者の年齢は、40～50代が最も多く、35.8%、ついで、60代以上が29.1%、小学生22.4%、20～30代20.1%となっており、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方に来場いただいた。また、何人で来場したかについては、2人が最も多く、35.9%、ついで、1名が22.1%、4名17.6%、3名17.2%と、夫婦や家族連れ、友人と等、複数名で連れだって来場した方が多い。今回のイベントで興味を持った団体を問う設問では、最も多かった団体で34.3%でありかつ、全団体に票が入ったことから、今回のイベントがつながりづくり活動に取り組む団体の周知につながったことが分かる。また、今回のイベントで楽しかったこととして「色んな方々との交流」「いろんな団体の支援とつながる」「老若男女が接する」「孫と遊ぶこと」「たくさんの人と話せた」等、人とのつながりを楽しんだという意見が多く上がった。

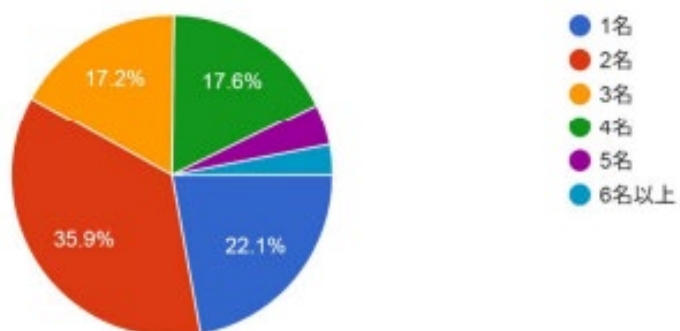
図表 来場者の年齢

年齢を教えてください。(人数分該当する全てに○をつけてください)
268 件の回答



図表 一緒に来場者した人数

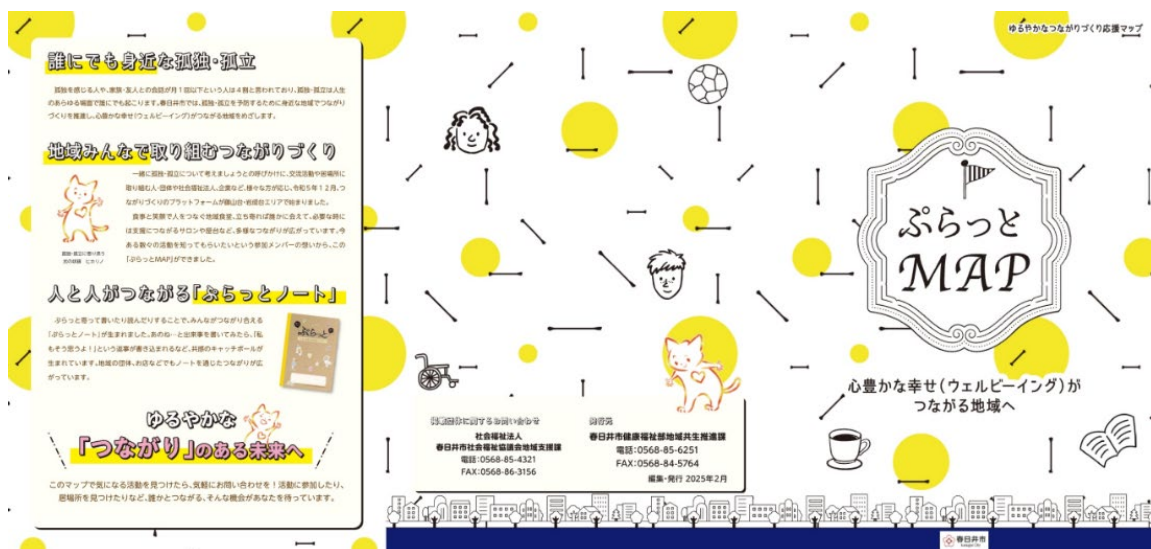
グループで来場された方は、人数を教えてください。
262 件の回答



出展した活動団体からは、当日販売する作品作りをすることで当事者の意欲を向上できたり、実際に売れたことによって社会とつながる喜びを感じることができたという声があがった。

④「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」の作製	
概要	昨年度、藤山台・岩成台PFにて生まれた「ぶらっとノート」をはじめとした、つながりづくりの活動紹介を掲載するマップを作製した。紙媒体の配布だけでなく、春日井市 HP やPF参加団体の SNS などのデジタル媒体でも周知した。
ねらい	- 人々がゆるくつながりあえる「ぶらっとノート」の取組を広く知ってもらうこと。また、「ぶらっとノート」の取組への参加団体を増やすこと。 - ノートを設置している団体は、つながりづくりや居場所づくりの活動を行っているため、その活動内容に関心を持ってもらい、気軽に訪問できるようにすること。
工夫点	- 掲載団体運営者の顔写真とメッセージを載せることで、読む人が居場所に対して親近感やあたたかさを感じられるようにした。 - 身近なところでマップが手に入るよう、ノートを設置している団体の活動拠点だけでなく、飲食店やスーパー等の生活動線上に配置した。
結果	- 公的機関だけでなく、スーパーやスポーツクラブ、飲食店等にて、約5,700枚のマップを設置予定で調整を進めており、現時点で約2,000枚を設置した。 - マップを活用してPFへの新規参加団体を募る過程で、ノートの設置場所が新たに9箇所増えた。 - 市民から、とても見やすい、マップを活用して困っている方に積極的に居場所を教えたい、初めてマップを見た市民からどのようなマップか複数質問があり関心を持ってもらえた、ニュータウンエリア以外の地域でも、このようなマップがあったらいい等の声があがった。

図表 作製した「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」



図表「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」配布場所(予定)

設置場所	設置箇所数	設置枚数
スーパー	3	700
認知症カフェ	12	600
飲食店	2	100
スポーツクラブ	1	100
無料塾	1	50
PF参加団体	21	1,650
民生委員・児童委員	—	640
社会福祉協議会	7	210
地域福祉コーディネーター	—	300
地域包括支援センター	2	100
イベント・研修等	—	370
公的機関・施設	6	892

⑤ シンポジウムの開催	
概要	「身近でゆる～いつながり」をテーマに、有識者による基調講演や、市内で居場所やつながりづくり活動を行う活動団体によるパネルディスカッションを行った。また、「ぷらっとノート」の展示も行い、孤独・孤立には予防が大切であることの啓発やつながりづくり活動の周知を行った。
ねらい	・ 孤独・孤立問題が如何に身近な問題であるか、人與人、人と地域のつながりが大切であることを広く市民に周知すること。 ・ 春日井市内のつながりづくり活動を知ってもらい、関心をもってもらうこと。 ・ つながりづくり活動の一つとして実践されている「ぷらっとノート」の取組について周知すること。
工夫点	・ 基調講演でつながりづくりや安心できる居場所の重要性を周知し、その後春日井市のつながりづくり活動や活動団体の思いを伝えることで、これらの活動を参加者がより身近なものと感じられるようにした。 ・ 公共施設でのチラシ配布だけでなく、PFメンバーの活動場所でのポスター掲示や公式 LINE 等での広報等も行った。 ・ イベント参加者はシンポジウムへの参加も見込めると推測し、お祭りや講演会、高齢福祉関連のイベントやウォーキングイベント等、様々なイベントで案内チラシの配布を行った。
結果	・ 159 人が来場した。 ・ アンケートの結果、93%が「身近な地域のつながりは大切だと感じた」、42%が「つながりづくり活動に参加してみたいと思った」と回答した。 ・ 今回のシンポジウムが、つながりづくり活動の周知だけでなく、実際に支援活動をするきっかけや活動団体間の連携につながった。

(実施概要)

日時:2月16日(日) (13:00~16:00)

場所:春日井市東部市民センターホール

内容:

- ・孤独・孤立問題や人與人、人と地域がゆるやかにつながりあう活動の魅力に関する基調講演
- ・孤独・孤立問題とつながりづくりの大切さ、市内のつながりづくり活動の周知を目指したパネルディスカッション
- ・「ぷらっとノート」に関するパネル展示

基調講演講師:まほうのだがしやチロル堂 共同代表 吉田田タカシさん

パネルディスカッション登壇者:同朋大学社会福祉学部専任講師 加藤昭宏さん、ちいき食堂 木全奈穂さん、ちいき食堂 吉田和江さん、NPO 法人たんぼぼの風 松本祐子さん、えがいの駄菓子屋 毛利規寛さん、春日井市社会福祉協議会地域支援課 野寄雅人さん

基調講演では、作ることを通じて子どもが自分たちで考えた答えにたどり着く練習をする「アトリエ e.f.t.」や、地域で子育てを行い、大人も気軽に助け合えるシステム「まほうのだがしやチロル堂」、楽しみながら教育についての意識をアップデートする「トーキョーコーヒー」等の取組を行う吉田田タカシさんが登壇した。各取組について紹介していただき、人と人が楽しんでつながることの大切さや、対話やつながりにより教育や社会への意識を変化させていくこと、安心と自信、主体性を育む教育が子どもたちの生きる力を育てること、社会や地域のための小さな活動がひいては自分自身の精神的豊かさにもつながること等を訴求した。

パネルディスカッションでは、春日井市でつながりづくり活動を行う方々にご登壇いただき、各団体の活動内容と取組に向けた熱い思いをご紹介いただいた。つながりづくり活動は遠い存在ではなく、身近なところにも懸命

に活動されている方々が居ることを知る機会となった。会場からも、各活動に感銘を受けたという感想が多数寄せられた他、それぞれの活動内容についての質問もあがり、参加者も強く関心を持ったことがうかがえた。

図表 吉田田さんご講演の様子



図表 パネルディスカッションの様子



ロビーでは、藤山台・岩成台PFの取組として生まれた「ぷらっとノート」を紹介する展示を行った。多くの来場者が足を止めて展示を見ており、ぷらっとノートをはじめ、春日井市が孤独・孤立対策に取り組んでいることを周知した。

図表 プらっとノートの展示を見る参加者



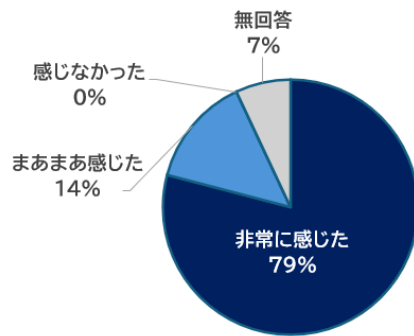
(効果検証)

来場者アンケートには43人が回答した。回答者の年齢は、70歳以上が最も多く半数を超えた。30～60代は44%となり、今後のつながりづくり活動の担い手となり得る市民も多く来場いただいた。今回のイベントの満足度としては、基調講演は98%が、パネルディスカッションは89%が「とても良かった」「良かった」と回答した。また、93%が地域とのつながりの大切さを感じたと回答した他、42%が新たに「つながりづくり活動」に参加してみたいと思ったと回答した(51%は既に参加中)。

図表 地域のつながりの大切さへの理解度

問5. 身近な地域のつながりは大切であると
感じたか

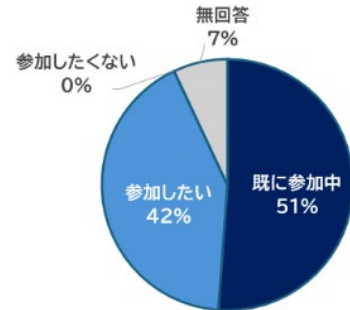
N = 43



図表 つながりづくり活動への参画意欲

問6. つながりづくりの活動に参加してみ
たいと思ったか

N = 43



自由意見でも、市内に素敵な人・居場所があることを知り心強く思った、何から始めたらいいか分からなかったが背中を押してもらった等の感想が多くあがり、今回のシンポジウムが市内のつながりづくり活動に関心をもち、実際に活動するきっかけとなったといえる。

⑥ つながりサポーター養成講座の開催	
概要	孤独・孤立を予防し、当事者を支援するために日常の中で何ができるのかを学び、「つながりサポーター」養成講座の講師を育成するための講座を開催した。
ねらい	今後のつながりサポーター養成講座の担い手を育成するために、市職員や社会福祉協議会等を対象に、講師養成の講座を実施した。
工夫点	継続的につながりサポーター養成講座を実施して市内の支援者を増やしていくために、今回はつながりサポーター養成講座の講師を養成することを目的とした。
結果	- 庁内他部署や社会福祉協議会等、計 22 人が受講した。 - アンケートの結果、回答者の100%が周囲の困っている人を助けようと思ったと回答した。 - 次年度以降のつながりサポーター養成講座の活用方法の検討が行われた。

(開催概要)

日時:1月 22 日(水) 17:30~19:00

場所:春日井市総合福祉センター 小ホール

講師:一般社団法人 Shien 代表理事 山田浩史さん

つながりサポーター養成講座の講師を育成することを目的として、春日井市職員や社会福祉協議会等を対象に講座を行った。実際に孤独・孤立当事者の支援活動を行う講師の実体験を交えた講義であり、終了後も今後講師をするにあたっての質問があがった。

図表 当日の様子



(効果検証)

受講者アンケートには 20 名が回答した。「本講座を受講する前と比べて、孤独・孤立に対する理解に変化はありましたか？」という設問と「孤独・孤立の問題について興味・関心は高まりましたか？」という設問には、回答者の 85%が理解できた・高まったと回答した。また、回答者の 100%が周囲に悩みや困りごとを抱えている人がいたら、できる範囲でサポートしようと思うと回答した。

図表 周囲の悩みや困りごとを抱えている人をサポートしようと思うか

質問3 周囲に悩みや困りごとを抱えている人がいたら、できる範囲でサポートしようと思いますか？（N=20）

